

なぜ みんなで島のゴミ拾い？

みなさん「漂着ゴミ」という言葉を知っていますか。

漂着ゴミとは海流に乗って陸地に運ばれてくるゴミのことをいいます。

海から漂着するゴミは際限なく、瀬戸内海に浮かぶ小さな無人島でさえ大きな問題となっています。

瀬戸内海の南端に浮かぶ友ヶ島では漂着ゴミの問題を抱えています。

友ヶ島は和歌山市加太沖、紀淡海峡(友ヶ島水道)に浮かぶ無人島で、瀬戸内海国立公園に属しています。全周は11kmほどの小さな島です。

海流のあたる北部は漂着ゴミが特に多く、とてもひどい有様です。

これらのゴミは一体どこから流れてくるのでしょうか。

答えは難しくありません。

友ヶ島は地理的な役割として、北に大阪湾、南に紀伊水道を臨みます。

つまり京阪神地域からのゴミが友ヶ島の北岸に漂着しているのです。

京阪神地域のゴルフ練習場の名前入りゴルフボールが、淡路島に隣接する成ヶ島から多く見つかったことによっても容易に推測できます。

京阪神地域に住む人々が適切に処理しなかったゴミが排水溝や川などを経て、大阪湾に流出し、友ヶ島や他の島々に漂着しています。

そして、島に漂着しなかったゴミはやがて太平洋に出て、世界のどこかへ流れていきます。

漂着ゴミは誰が処理すべきなのでしょう。

漂着ゴミが誰の責任で誰が処理しなければならないかを問いただすことだけで、この問題が解決するとは考えていません。

「誰かが」ではなく、「誰もが」気付かなければいけない問題です。

まずは少しずつでも「拾う」という活動から始めることが重要だと考えます。

少しずつ拾って少しずつキレイにするという活動の輪が広がれば、友ヶ島はキレイになっていきます。

私たちは、昨年に引き続き4月27日、友ヶ島を少しでもキレイにするゴミ拾いイベント『第2回 みんなで島のゴミ拾い』を実施します。

友ヶ島で年に一回ゴミを拾うことで、即座に世界がよくなるわけではありません。

しかし、ゴミを拾い、ゴミについて考え、ゴミの現状を知ってください。そして、その経験を周りの人たちに伝えてください。

「誰かが」ではなく、「誰もが」取り組めることに解決のための一歩があります。

瀬戸内海に浮かぶひとつの島の現状を通して、世界に繋がっているゴミの問題に思を巡らせてください。

そうすれば、世界で放置されているゴミも少しずつ減るのではないかと考えています。